



TITLE:

共同利用研究(44年度-47年度)による業績一覧(Ⅲ 共同利用研究)

AUTHOR(S):

CITATION:

共同利用研究(44年度-47年度)による業績一覧(Ⅲ 共同利用研究). 霊長類研究所年報 1974, 3: 63-64

ISSUE DATE:

1974-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162487>

RIGHT:

7. チンパンジーの社会行動

森 明雄 (京大・理)

脳神経の部

司会 江原昭善 (京大・霊長研)

1. 各種霊長類の脳の量的諸形質とその機能について

久保田競 (京大・霊長研)

2. 運動機能に関する脳の構造の進化

草間敏夫 (東大・医)

討論者 武田 創 (神戸大・医)

総括

渡辺直経 (東大・理)

ホミニゼーション研究会の目的なり意義については、すでに霊長類研究所年報第1巻および第2巻でふれているので、ここでは今回の研究会の概要を記するにとめたい。

今回の研究会は3部に分けておこなわれた。まず、発

達の部では、形態学的側面での発達と行動学的側面での発達とを一括して第1部とし、3題の発表がなされたが、単に“発達”という用語だけで内容の異なるものをまとめるのはおかしいとのクレームが提出された。世話係としてはアプローチの方向を固定せず、できる限りの問題点をすくいあげる方針でのぞんだわけだが、明らかに企画としての粗雑さはまぬがれ得ず、今後の課題設定に際してのより慎重な配慮の必要性を痛感した。第2部では、昨年度からの問題提起の継続として“言語・コミュニケーション”に関する発表がなされた。伊谷氏の好司会もあり、また演題数からいっても今回の研究会の中心をなしているが、内容については特集「ホミニゼーションその2」を参照していただきたい。第3部では脳の進化に関して形態学的方面からと生理学的方面からの発表がなされた。

(文責 渡辺 教)

付録 共同利用研究(44年度~47年度)による業績一覧

下記のリストは、昭和44~47年度の共同利用研究員へのアンケートにより、47年度以前の共同利用研究にかかわる論文・著作(学会発表抄録、未発表論文をのぞく)を著者名のアルファベット順に拾録したものである。なお、これらの業績の一部については著者より別刷が寄贈されており、「共同利用研究業績集」として当研究所図書室に保管されている。

葉山杉夫 (1970): 霊長類の喉頭嚢について。人類学雑誌78(4): 274-298。

Hirai, M. (1972): Banding pattern in chromosomes of a female chimpanzee (*Pan troglodytes*) using Giemsa-stain techniques. 人類学雑誌 80(4): 384-389。

堀 哲郎・中山昭雄・永坂鉄夫・登倉尋実・只木英子 (1971): サルの温熱性代謝反応測定法。名古屋大学環境医学研究所年報 22: 27-32。

Hori, T., Tokura, H. & Tadaki, E. (1972): Surface area in the Japanese monkey (*Macaca fuscata*). *J. appl. Physiol.* 32(3): 409-411。

Ibuka, N. (1970): The influence of day-night cycles and the additive effects of methamphetamine and illumination on the spontaneous activity in rhesus monkeys (*Macaca mulatta*). *Primates* 11(2): 101-111。

Ibuka, N. (1970): The relationship between visual exploratory behavior and spontaneous activity in rhesus monkeys (*Macaca mulatta*). *Primates* 11(3):

201-214。

Ibuka, N. (1971): The differential effects of methamphetamine upon visual exploratory behavior and spontaneous motor activity in rhesus monkeys (*Macaca mulatta*). *Jap. psychol. Res.* 13(1): 26-33。

井深信男 (1972): パー押し場面におけるアカゲザルの視覚的探索行動と自発的活動に及ぼすメタンフェタミンの効果。心理学研究 43(5): 277-282。

Ikai, K. & Hasegawa, Y. (1972): Adrenal sweating. In *Advances in Climatic Physiology*, p 109-121, Igaku Shoin, Tokyo。

Ishimoto, G. (1971): Electrophoretic patterns of red cell NADH diaphorase in macaque monkeys. 人類学雑誌 79(4): 382-387。

Ishimoto, G. & Kuwata, M. (1972): Phosphohexose isomerase polymorphism in macaques. 人類遺伝学雑誌 16(3): 154-165。

石本剛一 (1972): マカク属サルの血液蛋白変異に関する研究, 2. 赤血球酵素。人類学雑誌 80(4): 337-350。

石本剛一 (1973): マカク属サルの血液蛋白変異に関する研究, 3. マカク血液蛋白多型の特徴。人類学雑誌 81(1): 1-13。

岩野泰三・四元伸子・西田利貞 (1971): ニホンザルの野生群の日周活動リズム予報。人類学雑誌 79(2): 128-138。

Nakayama, T., Hori, T., Nagasaka, T., Tokura, H. & Tadaki, E. (1971): Thermal and metabolic

- responses in the Japanese monkey at temperatures of 5~38°C. *J. appl. Physiol.* 31(3): 332-337.
- Nakayama, T., Hori, T., Nagasaka, T., Tokura, H. & Tadaki, E. (1973): Febrile responses of Japanese monkeys to typhoid endotoxin. *Ann. Rep. Res. Inst. envir. Med. Nagoya Univ.* 20:11-20.
- 難波益之・吉村剛・加藤秀明・三上泰史・三井尚(1971): ニホンザル *Macaca fuscata* 脳の老年変化。精神薬療基金研究年報 3 : 27-33。
- 難波益之・貝谷久宜・加藤秀明・吉村剛・三上泰史・森内巖・岩田毅・池田研二・池田澄江・三井尚 (1972): ニホンザル脳内アミロイド小体について。精神薬療基金研究年報 4 : 22-25。
- 俣野吉計 (1971): 哺乳類の精子。細胞 3(13): 43-51。
- 水原洋城 (1971): 馬のり論序説。季刊人類学 2(4): 63-85, 社会思想社。
- 水原洋城 (1972): サルの性と社会 1~5。えろちか 34 : 22-36, 35 : 28-45, 36 : 55-71, 38 : 7-18, 39 : 7-18, 三崎書房。
- 岡島道夫 (1973): 皮膚紋理。小児医学 6(4): 768-780, 医学書院。
- 白瀧貞昭 (1973): 新生児 sucking movements の生理学的・発達の研究。脳と発達 5(3): 210-215。
- Shirataki, S. (1973): Physiologisch-Ontogenetische Untersuchungen des Saugens bei Neugeborenen des Menschen. *Folia psychiat. neurol. Jap.* 27(3): 251-263.
- Sugiyama, K., Hotta, K. & Tokura, H. (1973): Na-K ATPase of isolated sweat gland from monkey. *J. physiol. Soc. Japan* 35(10): 588-589.
- 和栗秀一 (1973): ニホンザルの皮膚裂線系について。哺乳動物学雑誌 5(6): 224-229。
- Yamazaki, K., Tajimi, T., Okuda, K., Niimi, Y. (1972): Psychophysiological significance of skin potential activity in monkeys. *Psychophysiol.* 9(6): 620-623.
- Yamazaki, K., Tajimi, T., Okuda, K. & Niimi, Y. (1972): Spontaneous skin potential response during natural sleep in monkeys. *J. physiol. Soc. Jap.* 34(11): 752-758.